

秋田駒ヶ岳の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

噴火警報等で発表する噴火警戒レベル

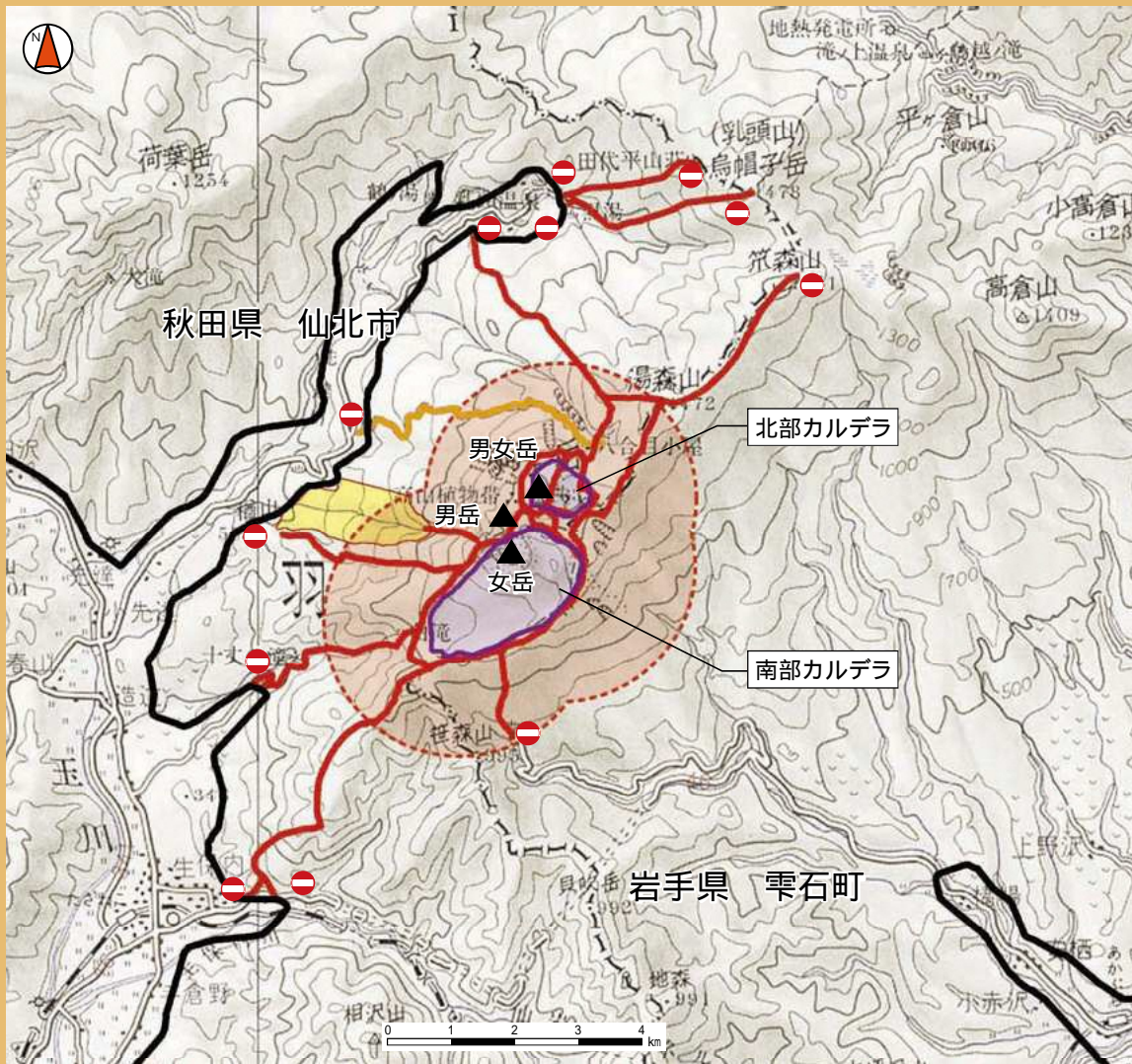
噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。

各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」)。

対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



秋田駒ヶ岳 火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)に対応した、登山道規制区間、県道規制区間



秋田駒ヶ岳の火山活動について

秋田駒ヶ岳では、1970年に南部カルデラの女岳山頂から噴火しています。この噴火で噴石の一部は、西側では外輪山を越え、東側では小岳(中央火口丘)まで、600~700m飛散(主にカルデラ内)しています。

凡例	
	想定火口
	噴石飛散範囲 (火口から約2km)
	登山道規制区間
	県道規制
	規制地点
	規制施設
	居住地域の境界

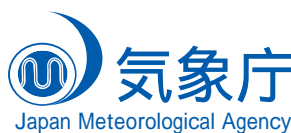
この図は、国土地理院発行5万分の1地形図「秋田」を使用して作成しています。

この図は「秋田駒ヶ岳火山防災マップ」(仙北市(旧田沢湖町)、雫石町、秋田県、岩手県、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所、岩手河川国道事務所、平成15年2月)に基づき作成しています。

秋田駒ヶ岳の噴火警戒レベルは、地元自治体等と調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については地元市町村にお問い合わせください。



本冊子は、植物油インクを使用しています。



仙台管区气象台 地域火山監視・警報センター
 TEL: 022-297-8164 <http://www.jma-net.go.jp/sendai/>
 秋田地方气象台 TEL: 018-823-8291
<http://www.jma-net.go.jp/akita/>
 盛岡地方气象台 TEL: 019-622-7868
<http://www.jma-net.go.jp/morioka/>

問い合わせ先



秋田駒ヶ岳の噴火警戒レベル

予報 警報	対象 範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山 者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	噴火による影響で、居住地域に重大な被害が切迫している場合。 噴火に伴いカルデラから火砕流、融雪型火山泥流の流出が予想された場合。 過去事例 有史以降の事例なし
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。 全山入山規制。	噴火による影響で、居住地域に重大な被害が予想される場合。 噴火に伴い火砕流、融雪型火山泥流が発生し、カルデラ縁付近まで到達する恐れがある場合。 噴火に伴い噴石が居住地域の近くまで到達すると予想された場合。 過去事例 有史以降の事例なし
火口周辺警報	火口から 居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	噴火による影響が火口からおおよそ2km以内。 噴火に伴いカルデラ内で火砕流、融雪型火山泥流が発生(確認)した場合。 噴石がカルデラ縁を越える噴火が発生した場合。または、噴火の発生が予想された場合。 過去事例 1970年女岳からの噴火
	火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。	噴火による影響が火口から500m以内。 地震活動や噴気活動の活発化等により、噴火の発生が予想された場合。 過去事例 1932年南部カルデラ内(石ボラ)での水蒸気爆発
噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。	状況に応じて火口内への立入規制等。	火山活動は静穏。 女岳北側で弱い噴気活動が見られるが、南部・北部カルデラに目立った表面現象はない。

噴火による影響とは、噴石、火砕流、融雪型火山泥流により、現象が始まってから避難までの時間的な余裕がほとんどなく生命に対する危険性が高い火山現象による影響です。

噴石、火砕流、融雪型火山泥流で、避難道路などが通行不能となる恐れがある区域では、早期避難が必要です。

各レベルにおける具体的な規制範囲等については地域防災計画等で定められています。各市町村にお問い合わせください。

最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>